

事前説明における各委員の指摘と回答

番号	委員名	事業名	地区名	該当項目	意見等	回答
1	長澤委員長	全事業	全地区	基礎資料 事業の概要	事業実施前後の写真撮影年はなるべく全ての地区で記載すること。	撮影年月日記入
2	波多野委員	全事業	全地区	基礎資料 6. 今後の課題	施策として離農しない農地集積が進まないのであれば、農村地域の人口減を促すことにならないか。事業を通じて生産された農産物を利用し6次産業化が進み、離農した方の雇用の場が創出され、地方再生や人口減につながっていく方向性を示す必要があるのではないか。	<陸別地区> 意見を踏まえ、記載内容を修正。 事前説明時点 飼料生産基盤の拡大により、着実な規模拡大が図られているが、今後、家畜飼養頭数の増加に伴い、引き続き家畜排せつ物の適切な管理を通じた地域環境への負荷軽減を図っていく必要がある。 修正後 飼料生産基盤の拡大により、着実な規模拡大が図られているが、今後、家畜飼養頭数の増加に伴い、引き続き家畜排せつ物の適切な管理を通じた地域環境への負荷軽減を図っていく必要がある。 また、地域農業の新たな発展に向けて、効率的な労働力の配分、遊休農地の有効活用、地域の雇用創出や新規参入者の受入などが期待される畜産経営の法人化を推進し、農業者人口の減少軽減を図る。
3	長澤委員長	畜産環境総合整備事業	陸別地区	基礎資料 事業の概要	草地整備はどのような工種メニュー(区画整理、暗渠排水、耕作道整備など)が含まれるのか。	確認結果 草地整備は、区画整理、起伏修正等の面整備を行い、起土、整地、有機資材・土壌改良資材・肥料・種子の散布を行うなどの草地の整備を行うもので、暗渠排水、耕作道路整備は別の工種メニューとなっている。なお、当地区では用排水施設整備ということで、60haの暗渠排水整備を実施。
4	佐久間委員	畜産環境総合整備事業	陸別地区	基礎資料 4. 事業効果の発現状況	乳用牛の飼養頭数が17%増加しているのに対して、生乳生産量が27%増加しており、粗飼料の質と量の改良と乳牛の改良によって一頭当たりの生乳生産量は増加しているものと思われる。「良質な粗飼料の増産が図られている。」となっているが、成分分析のデータはどのようにになっているのか。	確認結果 当地区においては、牧草の成分分析を行っていないため、データは無いが、過去に他地区において、草地整備前と草地整備後の牧草の成分分析を検証した際には、成分の上昇が確認されている。
5	岡村委員	畜産環境総合整備事業	陸別地区	基礎資料 4 事業効果の発現状況 (1)事業の目的に関する事項 ② 有機資源のリサイクルシステムの構築	【家畜排せつ物処理施設の実績】の表中、評価時点の発生量と製造堆肥・スラリー量に5,390tの差があるが、これは未処理量なのか、それとも完熟堆肥及びスラリーにすることにより水分量が減少することによる差なのか。また、事業計画時現況の製造堆肥・スラリー量の欄が空欄なのは、計画時現況においては処理施設が存在しておらず施設による処理実績がないことから、空欄となっているものと思われるが、事業実施前は個人対応による堆肥化すら取り組まれていなかったという誤解を与えかねないので、表の下に「家畜排せつ物処理施設による処理に該当する量はなかった。あるいは、事業実施前は、家畜排せつ物処理施設が未設置のため「－」としている。」等の注釈が必要。	・発生量と製造量の差については、堆肥化することによる水分量の減少です。 意見を踏まえ、注釈を追記。 (追記) ※事業実施前は、家畜排せつ物処理施設が未設置のため「－」としている。
6	長澤委員長	畜産環境総合整備事業	陸別地区	基礎資料 4 事業効果の発現状況 (1)事業の目的に関する事項 ② 有機資源のリサイクルシステムの構築	家畜排せつ物処理施設の実績によると、完熟堆肥・スラリーが26.02t/ha還元・散布されているが、この結果、購入肥料(化学肥料等)の投入量が減るなど、経営コストの節減に繋がっている事実(データ)はないのか。そのような事実があればその点も評価すべき。	確認結果 完熟堆肥の還元・散布により、購入肥料の投入量の節減に繋がると思われるが、データの確認はできていない。
7	中原委員	畜産環境総合整備事業	陸別地区	基礎資料 4 事後評価時点における費用対効果分析の結果	項目送り番号は(3)ではなく(4)オープンになる資料なので、ケアレスミスはないように確認すること。	修正いたしました。

事前説明における各委員の指摘と回答

番号	委員名	事業名	地区名	該当項目	意見等	回答
8	岡村委員	畜産環境総合整備事業	陸別地区	地区別結果書 事後評価結果	家畜排せつ物処理施設等を整備したことによって管理基準にそって処理された有機質資源が農地に還元され、有機質資源の循環が効果的に行われ、自然環境の負荷軽減が図られていると環境面への効果しか記載がないが、有機質資源の農地への還元により牧草の生産性の向上している効果を発揮しており、この点も評価しているので記載すべきではないのか。	意見を踏まえ、記載内容を修正。 (事前説明時点) 本事業で家畜排せつ物処理施設等を整備したことによって、家畜排せつ物法の管理基準に基づき家畜排せつ物が適切に処理された有機質資源が、春の牧草生育前と秋の収穫後に分散して有効に農地還元が行われるなど、地域における有機質資源の循環が効果的に行われることにより、 自然環境の負荷軽減 が図られている。 (修正後) 本事業で家畜排せつ物処理施設等を整備したことによって、家畜排せつ物法の管理基準に基づき家畜排せつ物が適切に処理された有機質資源が、春の牧草生育前と秋の収穫後に分散して有効に農地還元が行われるなど、地域における有機質資源の循環が効果的に行われることにより、 牧草の生産性の向上 が図られている。
9	長澤委員長	畜産環境総合整備事業	陸別地区	地区別結果書 事後評価結果	「家畜排せつ物処理施設等を整備したことによって管理基準にそって処理された有機質資源が農地に還元され、有機質資源の循環が効果的に行われ、自然環境の負荷軽減が図られている。」と記載されているが、事業実施前における環境面の課題が具体的に見えないと共に、それが事業によってどう解消したのか、事業の実施前と実施後のデータが示されていないので、自然環境の負荷軽減が図られているという記載の具体性がなく、評価して良いのか判断できないのでは無いか。データが無いのであれば、「地域における有機質資源の循環が効果的に行われている。」程度の結ぶにすべき。	同上
10	佐久間委員	畜産環境総合整備事業	陸別地区	基礎資料 6. 今後の課題等	「今後、家畜飼養頭数の増加に伴い。引き続き家畜排せつ物を適切に管理」とあるが、北海道全体としては、飼養頭数は減少基調にあるなか、地域として飼養頭数を増加させていく計画となっているのか確認をしておくこと。	確認結果 陸別町としては、飼養頭数についての今後の計画は増加計画となっております。